令和６年６月 24 日

研修だより 19 号

知識構成型ジグソー学習

小笠原康晃

「知識構成型ジグソー学習」という学習方法があります。
　一般的に「ジグソー学習」と呼ばれているものとは、少しだけ異なるところがあります。
　それは「一人一人が調べる情報が、同じレベルの情報である」ということです。
「ジグソー学習」とは、グループのメンバーがそれぞれ違う情報を調べ、調べたことを報告するという学習方法です。
　例えば、3 人班で「司法、立法、行政」について調べるとします。
　このとき、他のグループにいる同じ分野を調べる人と一緒に調べます。
　司法を調べる人は、司法を調べる人たちで集まって協力して調べます。
　立法を調べる人は、立法を調べる人たちで集まって協力して調べます。
　行政を調べる人は、行政を調べる人たちで集まって協力して調べます。
　調べ終わったら、そのことを元の３人班のグループメンバーに伝えます。
　すると、一人で３つのことを調べるよりも、より深い内容を、より短い時間で調べることができます。
　このときに、一人一人には知識を調べるインプットと調べたことを発表するアウトプットが頻繁に行われることになります。
　たくさんのインプットとアウトプットを繰り返すことで、知識の定着をさせることができます。
　この方法を、国語の説明文の「始め・中・終わり」や理科の実験過程「予想・結果・考察」などで行うと、うまくいきません。
　それは一連の流れをぶつ切りにして調べているからです。
　同じレベルの情報であるものを追究し、発表する。
　そうすることが「知識構成型ジグソー法」の特徴です。
　全ての教科、全ての単元で実施することは難しいですが、実践できる単元も多くあります。
　ぜひ挑戦してみてください。